

平成22年度病害虫発生予報第1号(4月予報)

今月のトピックス

もみ枯細菌病(イネ)

学名 : *Burkholderia glumae*



褐色帯状斑

発病穂

生態と被害

細菌により発生する病害で、箱育苗と本田の穂に発生する。種籾が第一次伝染源となり、催芽温度、出芽温度は30℃を超えると発病苗率が高くなる。また、穂の発病は、出穂期から出穂10日後頃までの高温多雨で助長される。

苗では苗腐敗症が生じ、箱育苗では腐敗は坪状に発生する。穂では出穂・開花期以降の籾が急に枯死し、症状が重い場合は穂が直立したまま枯れる。なお、発病は籾だけで穂軸や枝梗は緑色を保つ。病籾は不稔あるいはしいなになる。しいなでは健全部と病変部の境界が帯状になる褐色帯状斑を呈する。

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>